

《報道関係者各位》

2019年1月7日

LIXIL住宅研究所 代表取締役社長 加嶋伸彦 2019年 年頭挨拶

株式会社LIXIL住宅研究所

当社社長 加嶋 伸彦による「2019年 年頭挨拶」をお送りします。よろしくお願ひ致します。

記

新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、心新たに新年を迎えられたことと存じます。
年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年は、火山の噴火、記録的な大雪、地震や豪雨災害、酷暑など、多くの異常気象・自然災害が発生しました。生活の基盤となる住まいを扱う当社としては、自然災害により住民の生活拠点が奪われてしまうことは、とても心苦しいものでありました。被害を受けられた地域の皆さまに、あらためて心よりお見舞い申し上げるとともに、一刻も早い復旧・復興を祈念いたします。

日本経済においては、こちらも自然災害の影響でインバウンド消費や個人消費が一時減少する動きも見せましたが、直近では持ち直し傾向を見せています。この動きは、2019年も続いていくと考えています。ただし、2019年10月には消費税増税が予定されており、今後多少なりとも消費の落ち込みが懸念されます。

住宅業界においては、個人消費が回復傾向にあることと合わせて、低金利が続いたことから、2018年の住宅着工棟数は、前年と大きな変化はありませんでした。2019年には消費増税が予定されていますが、駆け込み需要の平準化対策に加え、夫婦と子どもからなる住宅購入世帯数は減少傾向にあるため、大きな駆け込み需要は発生しないと考えています。

昨年、当社では、今後想定される人生100歳時代の暮らし方を提案する、未来に向けた住宅として、コンセプトホーム『五世代』を発表しました。五世代4世帯が各世帯に合った別々のユニットに住みつつも、一つ屋根の下に小さなコミュニティを形成し、お互いを見守り助け合って、子育てや介護の手助けができ、みんなが元気に暮らす未来住宅であり、発表後は、多くのマスコミに取り上げていただきました。また、リフォームなどの非新築住宅事業の強化にも取り組みました。これらの成果は着実に出てきていると考えています。

2019年は、引き続き住宅購入需要は横ばいの状態が続くと想定しており、将来想定される住宅着工の落ち込みを考慮し、早い段階から将来の成長に向けての成長戦略を取りまとめ、よりスピード感を持って、新築からリフォーム、転居・住み替え、相続などあらゆる住生活ニーズに対応できる「ワンストップハウジング」戦略の強化を図ることを目的に事業領域拡大を進めてまいります。

最後になりますが、2018年は、私自身にとっても新たな一歩を踏み出す年となりました。今後もLIXILグループの一員として、これまで株式会社LIXILで学び、経験してきたことを新たなステージで存分に活用し、お客様に「豊かで快適な住生活をお届けしていく」とともに、LIXIL住宅研究所の先頭に立って、加盟店様から多くのことを学ばせていただきながら、住宅研究所としての役割を実現するため、日々新たな研究開発に取り組み、未来の快適な暮らしを実現する住まいを提供できるよう進めてまいります。

本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

【報道関係者のお問合せ先】

㈱LIXIL住宅研究所 広報・宣伝部 担当:千明

電話:03-5626-8251 メール:kazuhiko.chigira@lixil.com

LIXIL住宅研究所ホームページ/TOP URL:<http://www.lixil-jk.co.jp/>